

< 阿部律子町議の5月臨時議会報告 >

5月9日の臨時会においての議会の構成は次の通りです。

議長 木村公雄議員 副議長 木村征郎議員

阿部律子議員は希望通り文教福祉常任委員、

さらに議会広報調査特別委員になりました。



今回の議案と結果について

1、 町税条例の一部改正

阿部律子町議は、この件に関して、町たばこ税(平成15年7月1日より)税率引き上げの部分と配偶者特別控除が廃止(平成17年度より)されることについて質問しました。

質問 「1つめは、たばこ税、2つめは配偶者特別控除の廃止について、それぞれどれくらいの増収を見込んでおりますか」

回答 「たばこ税は550万円、配偶者特別控除の廃止によって平成17年度は670万円それぞれ増収を見込みです」

阿部律子町議は、「いずれにしても町民の負担になるんですね」と指摘し、質問を終えました。

阿部律子町議は反対討論を行う予定でいました。しかし、議長が「討論に入ります」というやいなや、「異議なし、異議なし」の声で、即、議長が「異議なしと認め・」とはじまったため急いでボタンを押しつづけ「議長、議長、議長」と数度発言を求めましたが、あっという間に強行採決されてしまいました。

2、 国民健康保険税条例の一部改正

阿部律子町議は、国保加入者の介護納付金限度額を7万円から8万円に引き上げることにについて(平成15年4月より)質問しました。

質問 「引き上げによって、どれくらいの増収になりますか」

回答 「36世帯 28万円です」

阿部律子町議は、「いずれにしても町民の負担は大きいですね」と指摘し、質問を終えました。

次に阿部律子町議は、今度こそはとの思いで、議長が「討論に入ります」というやいなや、早めにボタンを押し、反対討論を行いました。

阿部律子町議の反対討論の要旨は次の通りです。

「介護保険が始まったばかりというのに、すぐに限度額を1万円も引き上げるとするのはあまりにも町民の声を無視しているとしか考えられないのであります。私は一軒一軒訪問し、いろいろな方々の声を聞いてきましたが、国保税や介護保険料の負担が家計に重くのしかかっており、これ以上の増税では『家庭が空中分解する』と語る人の気持ちがとても痛く伝わってきます。どうか庶民の悲痛な叫びを聞いてください。私は庶民の声を代表して、この値上げには反対するものです」

他に誰も賛成討論する人がなく採決に入りましたが、賛成多数で可決されてしまいました。

3、 特別土地保有税審議会条例を廃止する条例

4、 原子力発電所施設の固定資産税の不均一課税に関する条例の一部改正

この2件はそれぞれ賛成しました。

初議会を終えて、そして今後の決意(阿部律子町議の談話)

とにかく初めてのことなので緊張の連続でした。ボタンを押すのが遅れたときは、高野さんがいてくれたらと、本当に思いました。あらためて二議席になれなかったことへの悔しさがこみ上げてきました。また、私の他に討論する方が少なかったのは残念なことだと感じました。これから4年間、皆様方に支えられて当選した重みをかみしめながら精一杯がんばる決意です。どうぞご意見、ご要望をどしどしお寄せいただきたいと思います。この間老壮大学の送迎バスをぜひ大沢、安住から浦宿、旭が丘方面の方々にも出して欲しい等々の声をうけ、町の担当課に要望してきました。6月議会は6月16日よりはじまります。引き続き皆様の声を届けていくようがんばってまいります。今後とも皆様のご指導をお願いいたします。

捲土重来を期して―― 高野博氏の談話

私は、今回の選挙結果を教訓に次回にむけて捲土重来がんばる決意です。

当面は、特別養護老人ホームの実現をはじめ、公約実現にむけて日本共産党女川町委員会を代表し、阿部律子町議とともにがんばります。また引き続き身近な生活相談相手として活動をはじめております。あらためて皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

「しんぶん赤旗」をぜひご購読ください

申し込みは阿部律子(54)2562
高野博(53)3614へ

女川民報 フレッシュ便

日本共産党女川町委員会
(53)3614、(54)2562
2003年6月8日(日)

このたびの三陸南地震の被災者に心からお見舞い申し上げます。

5月下旬から6月初旬の、阿部律子議員と高野博氏の活動を紹介します。



5月25日(日曜日)

- (1) 日本共産党女川町委員会を設け、委員長に高野博氏がつとめることになりました。
- (2) これまで、阿部律子町議が先頭になって「特別養護老人ホームの陳情署名」を集めてきましたが、幅広く運動を進めるために「特別養護老人ホームをつくる会」の準備会を発足させました。
そして、牡鹿町などの特別養護老人ホームを実際に見学することなどを決めました。

5月26日(月曜日)

午後6時24分 マグニチュード7.0の三陸南地震が気仙沼沖では発生。激しい揺れがあり、女川原発3号機自動停止の報道がありました。1,2号機は点検で運転停止の状態でした。電話も携帯もつながりにくくて苦労しました。

5月27日(火曜日)

阿部律子町議は 役場で町と東北電力も出席して、地震の被害調査報告を受けました。

通学路や出島のがけ崩れ、江ノ島の送水施設や建物にも被害があり、余震も続き、電話や携帯もつながらず、住民の不安は募るばかりでした。

説明では女川町は震度4というのが本当か。原発3号機225ガルで自動停止したとの説明だがさっぱりわからない。震度いくらといってもらいたい。役場職員がなぜ巡回しなかったのかなど、質問が出されました。

<コメント>

石巻市や仙台市その他数多くの自治体は直ちに災害対策本部を立ち上げ被害調査に、情報収集に全庁あげてのりだしたのに、原発をかかえる町で対策本部をつく

らなかったのは、怠慢としか言いようがない。あれだけ余震が続き、後から3号機では水漏れもあったと報道されたが、1・2号機の総点検を求めたい。いずれにしろ、事態が落ち着けば警戒本部に切り替えたり、万一原発で重大な事態になれば緊急時対策本部に切り替えたりできるはずです。

5月30日(金曜日)

阿部律子町議は 原子力PRセンターで、国の原子力安全保安院と東北電力から「女川原発1号機再開を含む安全対策」の説明を受けました。

この説明会には町議会議員18名中11名が参加しました。

説明の後、阿部律子町議は一番はじめに発言し、「住民の立場から、シュラウドなどのひび割れをそのまま修理もしないで安全だといわれても、町民は納得できないでしょう」とのべて、国や電力のいう「安全」のいいかげんさを指摘しました。本人は初めての経験で胸が破裂しそうだった。と感想を述べていました。

6月5日(木曜日)

阿部律子町議と高野博氏の公約実現に向け、活動開始です。

「特別養護老人ホームをつくる会」準備会の主催で、牡鹿町の特養ホーム清心苑を見学しました。平日にもかかわらず、参加者は11名でした。



- ・敷地面積 約二千二百坪
- ・延床面積 約1千坪
- ・工事費 約8億8千4百万円
すべて国県町の補助、助成
- ・敷地 町と無償貸与契約

経営は 河南町北村の社会福祉法人 旭寿会(キョクジュカイ)が行っていました。この法人は雄勝町の雄心苑や河南町一心苑なども運営しています。

申込者は180人を越えたそうです。50人の定員中、牡鹿町民を優先し33人が入居しています。ちなみに女川町から4名入居、遠くは塩釜市からも来ているとのこと。入所基準は調査の上緊急度の高い人から選んだとのこと、平均で介護度は3.2ぐらいだそうです。全室個室でユニット式でした。見通しがよく介護する職員がいつも傍にいる感じでした。職員は全部で45人。20人以上は町内採用です。

詳しくはまた。報告します。

以上

日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

阿部律子町議は6月議会の議会報告を7月15日針浜、7月19日浦宿、7月23日旭が丘の3か所で開催し懇談しました。また選挙の時の約束どおり女川民報「議会報告特集号」を全戸に届けはじめました。

<阿部律子町議の活動報告>

6月29日(日曜日)岩沼小学校で宮城県母親大会 女川から高野和子さんと参加、県内各地から1100人も集まりました。

7月6日~8日 議会広報調査特別委員会

この3日間、「議会だより」の編集、老人スポーツ大会出席、夜は青少協の地区懇談会への参加とフル回転でした。

7月10日、原発の運転再開問題で県交渉

宮城県知事に対し、「ひび割れ未補修」での運転再開を認めるなど、強く要請しました。

<原発問題住民運動宮城県連絡センターと日本共産党宮城県委員会>

7月14日 水揚優秀船並びに優良買受人表彰式に出席

7月18日 議員全員協議会

原発1号機再開説明会

阿部律子町議は「下部リングには全周に無数のひびがあり、内側は未調査、ひびを補修してから運転をすべき」と迫りました。しかし電力も国もまともに回答をしませんでした。(これら阿部律子町議の指摘した重大な事実は、7月25日の毎日新聞、河北新報に報道されています)

国保税値上げに関する説明会



7月22日 議会広報調査特別委員会 (最終校正)

7月23日 第5回臨時議会

国保税値上げの条例などで阿部律子町議は「4年連続の値上げは反対」と主張しましたが、多数決で値上げが決められました。

議会終了後の議員全員協議会が開かれ、町長から1号機の運転再開を容認する旨意思表示があり、阿部律子町議はこれまで正式の議会で反対を主張してきたのであって繰り返さず、その場では「ひびを未修理で運転再開は日本初」と指摘しました。

7月24日 文教福祉常任委員会 学習会

8月4日に富谷町の特養ホーム視察決定

<高野博氏の活動報告>

7月6日 仙台市で記者会見をしました。

7月7日 石巻市で記者会見をしました。

7月9日 東北電力本社に申し入れ。電力は「シュラウド下部リングの内側は調査せず」と説明。

7月10日 宮城県に「運転再開認めるな」と申し入れ。県は「下部リング内側調査しているはず」と強硬に説明。「それならその調査結果を公表せよ」と私達は申し入れましたが、県からの回答はいまだありません。

7月12日 教え子の皆さん達が「還暦のお祝い」・激励会をしてくれました。

7月13日 石巻市内で訪問対話を行いました。

7月15日 針浜の議会報告であいさつ 7月17日 女川町内6ヶ所で街頭演説。

7月19日 尾田峰集会所の議会報告であいさつ。

7月23日 石巻市で街頭演説5ヶ所、旭が丘の議会報告であいさつ

7月24日 東北電力本社に再び「運転中止」の申し入れを行いました。

7月25日 大崎タイムズ社、大崎地方集会であいさつしてきました。

7月26日 河南町で地震被害の実態調査に入りました。



< 高野博氏の活動報告 >

日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

7・26 宮城県北部連続地震の被災者の皆さんや被災にあわれたご親戚の皆さんに心からお見舞い申し上げます。

7月30日、阿部律子町議も日本共産党災害対策本部のボランティアとして、河南町でブロック塀、かわらの破片などをトラックに積み、撤去する作業を行ってきました。



< 阿部律子町議の活動報告 >

8月1日(金) 高野さんと朝のあいさつを始めました。
(浦宿駅前)



8月2～3日(土、日) 全国母親大会(秋田)に参加
秋田県にのべ1万8千人の参加、交流会。北海道から沖縄まで全国のお母さん方のパワーをもらい、元気に帰ってきました。

8月4日(月) 文教福祉常任委員会で富谷町特養ホーム視察
グループホーム、ケアハウスを含めた総合施設。全室個室で、職員一人ひとりの対応が行き届いていた。待機者500人とこのことでまだまだ足りないことを実感しました。

8月5日(火) 女川町議会として本吉町議会視察
特に夜間議会を開催したり、全議員を5班体制にして町内15会場で議会報告を行うなど、活発な議会活動をしていました。

国民救援会学習会に参加 筋弛緩剤事件についてでした
8月6日(水) 阿部加代子河南町議、水沢ふじえさんと全壊した北村小の実態調査しました

コンクリート柱の亀裂、破片が散らばり、ガラスの散乱、防犯扉のゆがみ等、すさまじさを物語っていました。耐震調査の必要性を実感。女川町でも本気になって取り組まないと大変なことに。



広淵でお話を聞く



27日県に申し入れ

矢本崖くずれ現場



鳴瀬川堤防決壊



南郷町で民家倒壊



松本議員とともに
鴻池大臣に要望



明高野は町長と話
深谷病院長の説



日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

秋刀魚(サンマ)の季節到来です。
水揚げに活気あふれる風景です。
いよいよ、秋の政局はいつ解散・総選挙になってもおかしくありません。
皆さん、暮らし・平和・子供・環境・エネルギー・食糧問題など、こんな日本でいいのでしょうか。
21世紀の日本の進路を決めるのはあなたです。



<阿部律子町議の活動報告>

8月8日(金曜日) 第6回臨時議会

主な議題は 役場庁舎改修建築本体工事を8千32万5千円で和田工業が、機械設備工事を1億2千180万円で新菱冷熱工業が行う契約を承認しました。

8月16日(土曜日) 海難殉難者慰霊祭に出席

8月19日から20日 日本共産党宮城県議員団研修会に参加

宮城県内の日本共産党議員83人の仲間に入り、地震対策や国民健康保険税の軽減に努力している議員活動にふれて大変参考になりました。

<高野博氏の活動報告>



8月11日 国政選挙予定候補者の会議に出席

8月13日 石巻市で街頭演説会

8月17日 河北町へ町議選準備の支援

8月18日 活動予定打ち合わせ会議

8月19日から20日

日本共産党宮城県議員団会議に参加

8月21日 涌谷町で街頭演説会

8月22日 浦宿駅で朝立ち 河北町議選準備の支援

8月23日 河南町で活動、河北町の演説会

高野博さんの演説原稿メモより

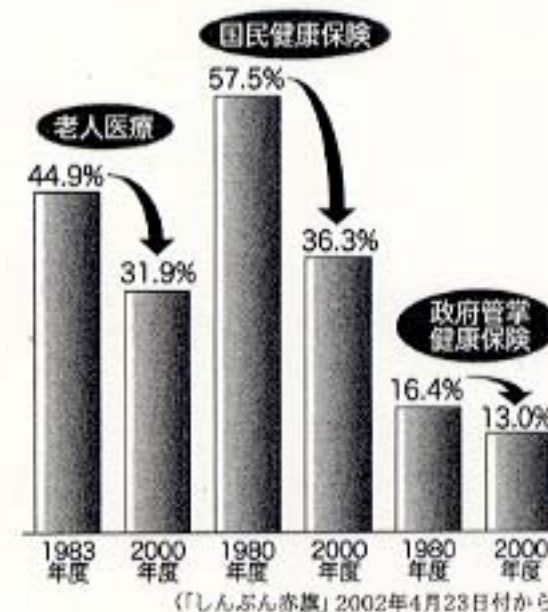
みなさんの場合はどうですか。今年の国保税の金額は変わりましたか。

女川町の国保税の推移を高野博さんの場合で調べてみました。
高野博さんの場合は、この間の議員報酬等年間の収入はほとんど変化がないか、むしろ減少しています。またこの間被保険者は私一人だけです。

年度	国保税+介護保険料	値上げ金額	値上げ率
平成12年度	20万8千円		
平成13年度	21万5千円	6千9百円	3.3%
平成14年度	23万6千9百円	2万1千9百円	10.2%
平成15年度	26万1千8百円	2万4千9百円	10.5%

今年の国保税の値上げに反対したのは日本共産党の阿部律子議員だけです。

医療保険への国庫負担の割合



国保会計を困難に陥れているのは、左のグラフの通り、国が国保への負担金を大幅に引き下げているからです。国の負担割合を元に戻せと日本共産党は主張してきました。

また、長寿日本一の長野県では国保の自己負担3割を1割、2割と軽減するなど、早期発見・早期治療を徹底し、国保税が日本一低くなっているといわれています。

赤字だから値上げを繰り返すのでは、あまりにも策がなさ過ぎます。

女川町長選挙について

8月22日現在、どの方とも政策協定の協議をしていません。従って日本共産党は責任を持って支持とか推薦とかの態度はとっていません。これからは私たちは原発の危険や原発震災から住民の安全を守り、暮らし、福祉、地域経済の振興に力を尽くし、がんばります。

日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

8月11日の演説会は70人の参加で成功しました。ご協力ありがとうございました。

参加者から、高橋ちづ子さんの話は、さわやかで堂々として、今すぐ国会で活躍できる人だと共感を寄せていただきました。

高野博さんも話が上手になったとお褒めをいただきました。



< 阿部律子町議の活動報告 >



8月22日(金) 浦宿駅で高野さんと朝の挨拶

8月29日(金) 浦宿駅で高野さんと朝の挨拶

9月01日(月) 針浜猪落の消波堤現地調査に

9月03日(水) 教育委員会で

町内小中学校の耐震調査の現状などを伺う

9月08日(月) 河北町へ政策チラシ配布の支援

9月11日(木) 日本共産党演説会

9月13日(土) 原子力安全保安院・原発説明会

9月15日(月) 敬老会に出席

9月16日(火) 議会全員協議会 女川温泉などについての説明を受けました。

9月17日(水) ポスター貼りをしました 早く貼らせていただきました。

なお 阿部律子町議は8月中に、6月議会報告「女川民報」の全戸配布をおこない、「フレッシュ便」の届け先を300軒までに広げています。

また、高野博さんの国政への挑戦のために、ポスター貼りや演説会のお誘いなどの活動に 後援会の仲間とともに全力を尽くしてきました。

19日から9月定例議会がはじまります。

高野博さんが石巻1市9町と遠田郡の涌谷町、小牛田町、田尻町、南郷町でがんばられるよう、阿部律子町議は町内に責任をもち、議会と選挙準備に全力投球です。

ご支援を心からお願いします。

< 高野博氏の活動報告 >

いよいよ1日に2ラウンド、3ラウンドの活動スケジュールです。

8月24日 紙参議院議員と矢本町の農業被害調査

8月26日 石巻で朝の挨拶 仙台で原発政策打ち合わせ

8月27日 石巻市内で挨拶・訪問活動

8月29日 田尻町で街頭演説会

9月02日 石巻で朝の挨拶 小牛田町で懇談会 街頭演説会

9月05日 候補者会議

9月06日 河南町で訪問活動 矢本町で街頭演説、遠藤正夫事務所開き

9月08日 政府交渉 (厚生労働省、農水省、国土交通省)

9月09日 政府交渉 (経済産業省、防衛庁、文部科学省、内閣府など)

9月10日 石巻農協、女川町商工会、魚市場、女川町漁協と懇談をしました。

9月11日 女川町で演説会 70名の参加、暖かい励ましをいただきました。

9月12日 高橋ちづ子さんと、河南町や涌谷町で街頭演説会

9月13日 河北町遠藤正夫さんの街頭演説 原発説明会で質問意見陳述

9月14日 石巻民主商工会、震災対策支援バザーに参加し、対話

9月15日 石巻市内で三浦市議と「しんぶん赤旗」の購読の訴え

9月16日 政見放送用ビデオ収録 9月17日 8中総報告をCS放送で聞く

9月18日 涌谷町で訪問活動 議会対策



政府交渉での高野博さんの奮闘が伝わるでしょうが震災や冷害の対策、原発事故の避難道路などで一定の前向きな回答を引き出しました。

日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

ついに国会が10月10日解散しました。いよいよ待ちに待った総選挙です。

小泉さんの2年半、どれほど多くの国民が苦しめられてきたでしょうか。

失業者は増え、石巻のハローワークの朝は交通渋滞です。自殺者も5年連続3万人を超え本当に痛ましい限りです。一方、大銀行には公的資金が湯水のように流され、もう返ってこないお金は12兆円も。みな税金です。日本共産党の躍進で、財界・大手企業が優遇され、国民が犠牲にされる政治から、国民の暮らしを応援する政治に切り変えましょう。消費税増税計画、憲法改悪の2大悪政にストップを！！

写真は毎週金曜日、浦宿駅前での朝のご挨拶です。阿部律子町議は、9月議会をこなしながら、仲間とともに女川町で高野必勝の先頭でがんばっています。



< 阿部律子町議の活動報告 >

- 9月19日(金) 浦宿駅で高野さんと朝の挨拶
- 9月19日(金) 6月定例議会始まる
- 9月30日(火) 6月定例議会終了
- 9月23日(火) 衆議院宮城5区後援会総会に仲間と出席
- 9月27日(土) 救援会石巻支部総会に出席
- 10月05日(日) 日本共産党演説会バスツアーで園芸センター見学
- 10月06日(月) 石巻地区1市9町特別職管理職員研修会出席
- 10月07日(月) 議会広報特別委員会 議会だより編集作業
- 10月08日(火) 同上
- 10月09日(水) 同上

なお、阿部律子町議の議会報告「女川民報」は近く発行します。

< 高野博氏の活動報告 >



- 9月19日 女川町朝の挨拶、河北町街宣
- 9月20日 女川町阿部律子町議とともに
- 9月21日 女川町阿部律子町議とともに
- 9月22日 石巻で山内さんとともに
- 9月23日 石巻朝の挨拶、牡鹿町岩崎町議と街宣
宮城5区後援会総会と決起集会
- 9月25日 石巻市内で読者訪問
午前、午後2ラウンド
- 9月26日 女川町朝の挨拶
- 9月27日 河南町街宣、鳴瀬町訪問
- 9月28日 石巻生活と健康を守る会総会 挨拶
庄司地域後援会連絡会涌谷町へ

- 10月02日 候補者会議
- 10月03日 女川町朝の挨拶
- 10月04日 矢本町街宣、涌谷町後援会挨拶
- 10月05日 市田書記局長迎えて大演説会
- 10月06日 女川で街宣
- 10月07日 石巻朝の挨拶 記者会見
- 10月09日 遠田郡、南郷町田尻町街宣
- 10月10日 女川朝の挨拶 解散直後石巻・女川街宣
- 10月11日 雄勝町と北上町を街宣



制度解説

衆院選挙では2回投票します

小選挙区選挙は候補者名で投票します

比例代表選挙は政党名で投票します

「日本共産党」と書いていただければブロックごとの得票数に応じて党の議席数が決まり、名簿の順に当選します

日本共産党 比例区

小選挙区

高野博

日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

高橋千鶴子さんが当選して本当に良かったですね。

高野さんも女川では1,090票をいただき感謝しています。比例で高橋さんの当選に大きく寄与しました。これも支持者、後援会員の皆様のご支援のおかげです。

写真は左から、阿部律子町議、遠藤いく子党県副委員長(参議院選挙で宮城を代表してがんばります)、高橋千鶴子衆議院議員、高野博さん。6月、女川町に原発事故調査に入った時のスナップです。



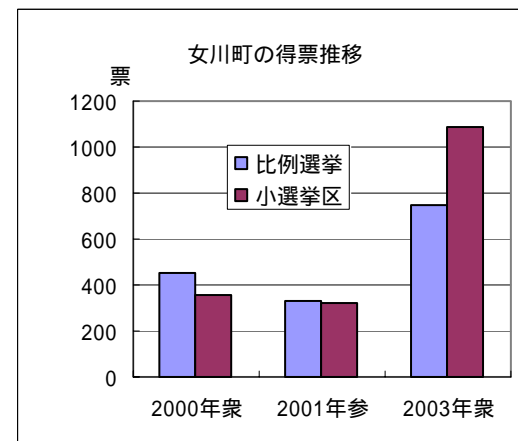
< 阿部律子町議の活動報告 >

- 10月12日(日) 国民救援会県本部大会出席
- 10月14日(火) 原発対策特別委員会
- 10月14日(火) 清水川尻集会所で高野博を囲む懇談会、議会報告
- 10月15日(水) 大原集会所で、高野博を囲む懇談会、議会報告
- 10月16日(木) 伊勢集会所で、高野博を囲む懇談会、議会報告
- 10月17日(金) 衆議院宮城5区、高野博事務所開き、女川より24名参加
- 10月19日(日) 町民運動会参加
- 10月20日(月) 臨時町議会 温泉温浴特別委員会
- 10月21日(火) 議会広報特別委員会 議会だより最終校正
- 10月24日(金) 町立病院等対策特別委員会
- 10月28日(火) 衆議院選挙公示、夜、鹿又屋で個人演説会 70名参加
- 11月03日(日) 女川町町政功労者表彰式出席
- 11月07日(金) 万石浦トンネル開通式出席
- 11月13日(木) 原発対策特別委員会
- 11月17日(月) 文教福祉常任委員会(教育問題、子どもの安全対策について)
- 11月19日(水) 臨時町議会、原発対策特別委員会

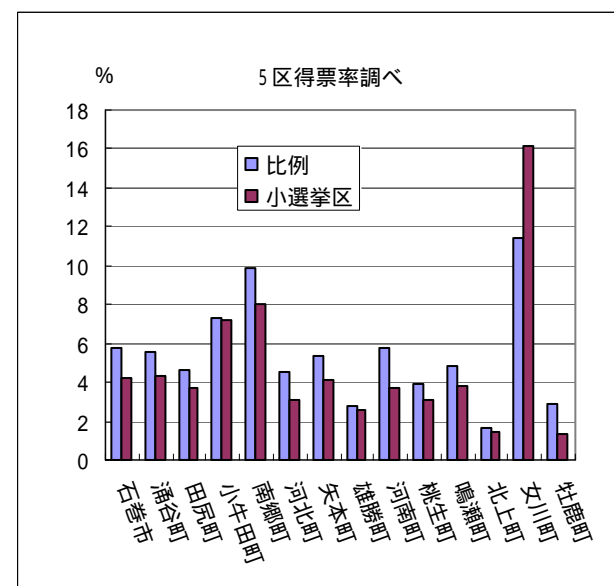
東北ブロックで高橋千鶴子さんが当選 高野博さん、女川町で1,090票と大健闘

厳しい戦いでしたが、東北ブロックでの議席の確保と高野さんの女川町での大幅な得票増に確信を持ち、来年の参議院選挙に向かって元気よくがんばりましょう。早くも年金改悪やイラクへの自衛隊派兵が大問題になってきました。消費税の増税や憲法改悪など日増しに国民に迫ってくるでしょう。公約実現にがんばります。暮らしと平和を守る日本共産党の役割を広く訴えていきましょう。

女川では小選挙区が参議院選挙の約3倍、比例区は約2倍と支持を広げました。もっと時間があつたらと思いました。本当にご苦労さんでした。



	比例選挙	小選挙区
2000年衆	452票	360票
2001年参	328票	320票
2003年衆	748票	1,090票

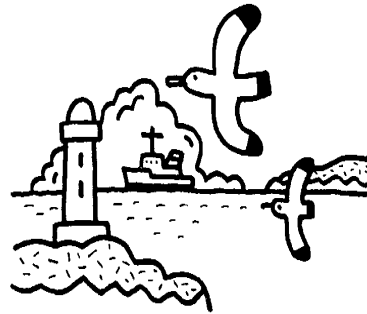


	比例 %	小選挙区 %
石巻市	5.78	4.23
涌谷町	5.56	4.29
田尻町	4.65	3.73
小牛田町	7.34	7.23
南郷町	9.9	8.05
河北町	4.55	3.06
矢本町	5.32	4.14
雄勝町	2.78	2.61
河南町	5.71	3.7
桃生町	3.89	3.12
鳴瀬町	4.8	3.78
北上町	1.6	1.43
女川町	11.41	16.11
牡鹿町	2.85	1.32

日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

今年一年ご支援ご協力ありがとうございました。
この女川民報「フレッシュ便」も5月から発行し、
おかげさまで11号をかぞえます。

これからもご指導ご鞭撻よろしく申し上げます。



< 阿部律子町議の活動報告 >

11月23日(日) 女川町商工会永年勤続表彰式に出席 生涯教育センター

11月25日(火)~27(木)

東京で原発サミットに出席、茨城県東海村視察研修

全国の原発がある市や町の議会議員等約370人が一同に会し抱える問題を話し合いました。阿部律子町議は「安全保安院の分離独立を」と訴えました。また、東海村ではヨウ素剤の配備について学んできました。

11月30日(日) 高野さんと原発問題住民運動全国連絡センター総会及び交流集会に参加 東京 全国18都道府県から約40名が参加。

石川県の珠洲原発の計画が中止になったニュースが飛び込んできました。(その後12月25日東北電力巻原発も建設断念)

12月07日(日) 後援会忘年会 華夕美 33名参加

12月08日(月) 、温泉温浴施設調査特別委員会

阿部律子町議は漁火の見える石浜の崎山に温泉施設をと提案しました。

、原発対策特別委員会

12月12日(金) 日本共産党桃生・牡鹿郡議員団会議

12月14日(日) 日本共産党東部地区党会議に出席

12月16日(火)~19日(木)

12月定例町議会 詳しくは「女川民報」で議会報告します。

町立病院等対策特別委員会

12月20日(土) 日本共産党桃生・牡鹿郡議員団会議

12月21日(日) 日本共産党宮城県党会議

12月25日(木) 高野博さんと一緒にイラクへの自衛隊派兵反対で街頭演説

「イラク派兵やめよ・憲法まもれ」と 元気に街頭演説、女川町内7ヶ所で

「いまイラクは全土戦場です。アメリカの無法なイラク戦争と占領に自衛隊を派兵して加担してはなりません。憲法9条を踏みにじってはなりません。女川町議会も意見書をあげました。自衛隊の父兄からも派遣反対の声が上がっています。日本列島のすみずみまでこの声を広げ、中止させましょう。日本共産党は女川でも署名運動を行っています。ご協力をおねがいします」と訴えました。



高野博の 街頭演説メモ

作家の赤川次郎さんや漫画家の石坂啓さん、作曲家の小林次郎さん、女優の吉永小百合さんなど、各界各層の多彩な顔ぶれがそろいました。

全日本革新懇の呼びかけに
著名人四十六人が賛同

日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

今年はイラクへの自衛隊派兵から幕を開けました。一方、日本共産党は国連を中心にした平和のルールを求める巨大な世界の動きを紹介し、21世紀の未来に希望をさし示した新しい綱領をつくりました。

一緒に、平和と暮らしを守る日本の未来をきりひらきましょう。今年は参議院選挙の年です。



< 阿部律子町議の活動報告 >

- 12月27日(日) 女川町水産まつりに参加
- 1月05日(月) 初売り手締め式 魚市場にて 出席
消防出初式 海岸広場 出席
新春年賀の会 生涯教育センター 出席
- 1月07日(水) ~ 9日(金)
議会広報調査特別委員会
- 1月11日(日) 成人式 生涯教育センター 出席
- 1月20日(火) 、議会改革調査特別委員会
、全員協議会(女川魚市場の現状及び支援策にかかる説明会)
- 1月21日(水) 町村議会議員講座 自治会館 出席
(「日本経済のゆくえ」「これからの地方自治」)
- 1月22日(木) 議会広報調査特別委員会 最終校正
- 1月27日(火) 学力向上フロンティアスクール実践研究発表会
女川一小 出席
- 1月29日(木) 1・29 イラク自衛隊派兵反対石巻集会に、高野博さんとともに参加。集会終了後駅前から市役所までデモ行進をしました。
- 2月3日(火) 大石原浜土砂災害訴訟、最高裁で住民勝訴。仙台および石巻で庄司弁護士、原告団、支援する会が記者会見。高野さんとともに同席しました。

大石原盛土崩壊事件 17年に及ぶ戦いが勝利!

1月30日庄司弁護士に最高裁から「宮城県の上告を棄却」と住民勝訴の知らせが電話で入りました。翌日31日には文書で通知されました。

昭和61年8月5日の事件発生からすでにあしかけ18年、高野博前町議が相談を受けた昭和62年2月から17年間、原告の皆さんの言葉で言い尽くせない苦勞と努力、「泣き寝入りはしない」という信念に支えられたたかいでした。

支援する会も署名を2万4千筆も集め、直接、宮城県や最高裁判所に持参し、届けました。

後日、報告集会を開きます。



2月3日石巻で記者会見。原告の石森、木村さんとご家族、庄司弁護士、「支援する会」千葉会長、高野事務局長らが出席。阿部律子町議が写す。

土砂流出 県に過失

宮城・女川 被災住民が勝訴

一九八六年八月五日の暴雨の際、宮城県女川町で県が工事した盛土が流出、四軒の民家が倒壊しました。県の過失を問う十七年半に及んだ裁判で、最高裁は一月三十日付で県の上告を棄却し、県の敗訴が確定し、原告の被災住民らは三日記者会

見し、勝利判決を報告しました。原告は、同町大石原の木村義勝さんと石森正明さん(以下略)の二人。問の災害は、県が県道の拡幅工事で出た土を道路直下に盛土した際、排水や水抜き対策を怠ったため発生したものです。最高裁は、最高裁に上告

木村さんたちは、土砂流出で家と家具いっさいを失いました。仙台高裁は二〇〇一年十二月、「不可抗力」とする県の主張を二審判決で退け、原告二人へ七千四百万円を支払うよう命じました。ところが浅野史郎知事は、最高裁に上告

しました。今回の上告棄却により、二審判決が確定しました。原告の石森さんは、「長い裁判だったが、ようやく頂上に登った」と話しました。弁護士の庄司によると、これまでの同種の裁判では、不可抗力の要素がある場合、不可抗力だとす

る主張が通ってきたケースが多いといいます。記者会見した庄司弁護士は、たどる慶雨であらう、施設管理がきちんとなされなければ職能(かし)になるという点で、意義のある判決だとして、強調。自治体に道路や河川管理のチェックを訴え

二月四日付け「赤旗」日刊紙

日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

2月からしばらく休みました。すみませんでした。この間、温泉問題や魚市場問題、原発の安全協定問題や、離島航路問題、そして消防署移転問題など課題が次々と提起されました。これらに対し、高野博町委員長と阿部律子町議が協議して、日本共産党の基本的考えと訴えを明らかにします。その立場は「町民の利益第一に」です。



温泉問題について

町当局は温泉を女川駅に併設して建設すると提案してきました。

日本共産党女川町委員会は、どうしても温泉が必要なら、女川駅に併設では、狭い、駐車場も少ない、景色に特色がない、非日常性に乏しいなどの理由から、場所を石浜の崎山に検討すべきと主張。(太平洋の出船入船を見ながらの入浴は最高です) 駅前からシャトルバスを走らせればJRもいいはず、という見解で議会の議論にのぞみました。しかし、町と議会は駅に併設設置と決定し、日本共産党の提言は実現しませんでした。3月議会で阿部律子町議は、キチンと温泉入浴者の需要調査をすべきと指摘しました。

離島航路問題について

いま丸中金華山汽船が出島航路から手を引くという事態の中で、町も議会もなんとかして島民の足を守ろうとされていることは当然です。

これに対して日本共産党は、いま有力な話になっている第3セクター方式による運営は問題の性格から再検討すべきと考えます。

いずれにしろ、これまでの離島航路の実態から赤字は必死です。そのために国

も町も補助しなければなりません。しかも国の補助では不十分で、町単独の補助もしてきたはずですが。それでも、いままでは議会で議論が出来、丸中汽船に金華山航路と離島航路の経営の分離などの提案もできたのです。

これが第3セクターになれば、全国どこでも運輸関係は特にそうですが、無責任体制で、赤字の垂れ流し、議会のチェック機能も果たせなくなるのでは、と心配です。

日本共産党は、責任の所在が明確な江島汽船有限会社で運営を行い、町民に対し説明責任が果たせる形で必要な資金は町も助成、補助し、離島島民の足の確保を図ることが基本ではないかと思えます。みなさんのご意見を伺います。

魚市場問題について

県漁連が女川町に納める市場使用料をゼロにしなければ、運営から撤退すると言いついた問題で、そもそも漁業者から水揚げ手数料を3%取って、0.5%の使用料を払えないとは、異常な事態です。水揚げの減少、魚価の低迷なども経営の悪化の一因でしょう。しかし、水産宮城の指導機関である県漁連の対応としてはあまりにも唐突で、到底承服できない内容です。

日本共産党は、町民各位の意見を聞きながら、暫定的に使用料の減免はやむを得ない。2年ないし3年の期限で見直し条項を条例に規定する。その間水揚げの増嵩策や県漁連の経営努力や運営形態についても検討する。という立場で議会に臨みました。

ところが町当局は、0.5%と定めた条例を変えないで、言い換えれば、かつてに町長一存で、0.2%の使用料しか取ろうとしない予算案を提出しました。

まさに総計予算主義に反し、条例無視、議会軽視もはなはだしい事態に直面しました。 <指摘を受け、条例改正を追加提案して、当局は事なきを得ましたが・・・>

いずれにしろ議会の存在が問われる出来事でした。

さらに、改正した条例では「使用料を当分の間0.2%に」と決めました。

阿部律子町議は、「0.2%という優遇措置を当分の間とすることは、あいまいでズルズルになる。2年や3年と期間を区切って、その間、対応を検討すべき」



と求めましたが、当局は提案を受け入れませんでした。

これからの協議が大切です。女川の再生がかかっています。

<うらに続く>

原発の安全協定問題

今回東北電力から提案された「安全協定の見直し」は、明らかに住民にとっては後退です。

これまで、「直ちに」通報連絡という決め方をしてきましたが、そこに放射能の排出量等によって段階をもうけ、「速やかに」通報しても良いという項目を設けようとしているからです。

女川町民ならご存知の通り、事故やトラブルが発生しても、東北電力から町への通報が遅く、テレビや新聞で知らされるのがほとんどで、さらには何時間も何日も遅れての発表でした。その良い例が2002年2月の火災事故です。微量とはいえ、放射能を浴びた作業員も出る事故でしたが、一部の住民は原発に走る消防車を見、新聞等マスコミは消防署から「直ちに」連絡を受け、取材に飛び回っていました。知らぬは肝心の町当局。だから同年3月に東北電力から「専用回線で直ちに報告」と改められたのではありませんか。

さらに一連の東京電力の事故隠しが、米国の市民からの内部告発から2年後にやっと明るみにされてはじめて、2002年9月、東北電力の女川原発でもシュラウドや再循環系配管等に「ひび割れ」が発覚し、東北電力の事故隠しの体質が大問題になりました。反省され体質が改善されたかといえば、その後2003年、水素燃焼（爆発）や圧力抑制プールの異物混入等の事故トラブルが東京電力から発表されるや否や、「実は同様のことが東北電力でもありました」と次々明るみになりました。もし東京電力へのこれらの内部告発がなかったら、東北電力のブルドン管での水素爆発事故や異物混入問題も、いつまでもヤミからヤミではありませんか。

日本共産党は、東北電力の事故隠しの体質は変わっていないと認識しています。皆さんはどう思われますか。

ですから、今回の安全協定見直しは撤回し、一層きびしく「すべての事故トラブルを直ちに報告すべし」と町は逆提案をすべきと考えます。

消防署移転問題

この問題は、3月議会で予算が可決されましたから、町と議会では決着済みのことかもしれません。しかし、行政の進め方にいろいろ教訓を残した問題と考えます。

第一に、町民の生命財産を守る消防の施設のあり方を決めるには、実施計画にのせ2、3年議論を重ねるべき課題であること。

第二に、場所の選定も津波にも備えられる場所とか、バス停や買い物客などの障害がなく、いち早く出動できる場所かどうか等の検討

第三に、価格についても、不動産鑑定士等も入れ、公正な価格の決定システムになっているかどうか。

など、町民の間から、いくつかの指摘がされました。 今後に生かして欲しいものです。

阿部律子町議の活動記録



日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。



年金法の改悪が強行されようとしています。
小泉自公政権は「百年安心の年金」、給付は5割を確保、保険料は19600円で歯止めをかけると言いました。
この2つの約束は真っ赤なうそでした。給付は4割3割に、保険料は天井知らずで上がり続けます。これが真実です。こんな年金法案は廃案に！ 高野博前町議と阿部律子町議は、「参議院選で国民の怒りを示そう」と街頭で訴えています。

< 阿部律子町議の活動報告 >

- 4月26日(月)・原発対策特別委員会
(安全協定及び地震対策)
・離島航路特別委員会
- 5月7日(金)文教福祉常任委員会
石巻地域総合生活支援センター視察研修
(知的障害者グループホームの実態について)
- 5月12日(水)臨時議会 専決処分<税の条例改正>
行政財産の目的外使用許可に係る調査特別委員会
- 5月14日(金)離島航路問題特別委員会 議会改革特別委員会
- 5月15日(土)日本共産党桃生郡牡鹿郡議員団会議
- 5月16日(日)女川第一中学校 大運動会 出席
- 5月20日(木)高野さんと 朝のごあいさつ、浦宿駅前
- 5月23日(日)エネルギー問題を考える会(県内青年28名参加)
講師の高野博さんと一緒に女川原発3号機視察研修
- 5月24日(月)議員全員による議会報告会 鷲神第一集会所 28名
- 5月25日(火) 同 宮ヶ崎集会所 32名
- 5月26日(水) 同 塚浜漁民センター 32名
高野さんと朝のごあいさつ、清水地区街頭演説 6ヶ所
- 5月27日(木) 議員全員による議会報告会 江島 49名



議会改革の一環として

はじめて、議長を除く議員全員による議会報告会が開かれました。4人一組で四つのグループにわかれて13箇所で行われました。私たちのグループで声の多かったのは、病院のことでした。大幅な赤字を減らす努力を真剣にやるようにとか、また土曜日や午後の診療もしてほしいという要望や、辛口の批判もありました。温泉については、利用客の確保は万全なのか、赤字になるのではないかなど・・・ハコモノ行政への批判も含めて、議員に対しても叱咤激励の言葉や数多くの意見要望が出されました。町民のその思いを深く噛みしめながら、しっかりと議員活動に励んでいく所存です。(阿部律子町議 談話)

行政財産の目的外使用許可問題に対する日本共産党の立場

この問題が発覚してから、前町議の高野博さんと相談し次のような見解をまとめ、議会での議論にのぞんできました。

この問題は、行政のミスをはじくりだして議論しているのではないこと。

行政が、議会を無視し、議会の承認を得ないで、かつてに土地を買い、他人に貸し与えることは決して許されるものではない。こんなことが平然とまかり通るなら、まさに行政の私物化です。誰が町長であろうと、ここが問題の本質です。

もう一方では、議会も平成15年度決算で、土地開発基金に変動があり、土地が当該年度で増えていたと記載されていたはずですが、それを問いただせば、問題の土地の利用計画など事前にチェックできたと思います。議会側も審議不十分を反省すべきではないでしょうか。

そうした角度から、現に塾で学んでいる児童生徒に犠牲が及ばぬよう配慮して、行政の責任追及と再発防止を求め、日本共産党は議論に加わってきました。

兵庫県でも日本共産党員町長が誕生しました。

兵庫県出石(いずし)町で、日本共産党町長が誕生しました。23日投票の町長選で、日本共産党前町議の奥村忠俊さん(56)が3388票を獲得、68票差で現職を破りました。兵庫県で4人目、全国では12人目の党員首長です。

全国各地で、「暮らし応援の政治」への転換がはじまっているのですね。



日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

女川町では三年前の後退から、反転攻勢に転じることができました。 これを力に、三年後の町議選で2議席確保をめざします！

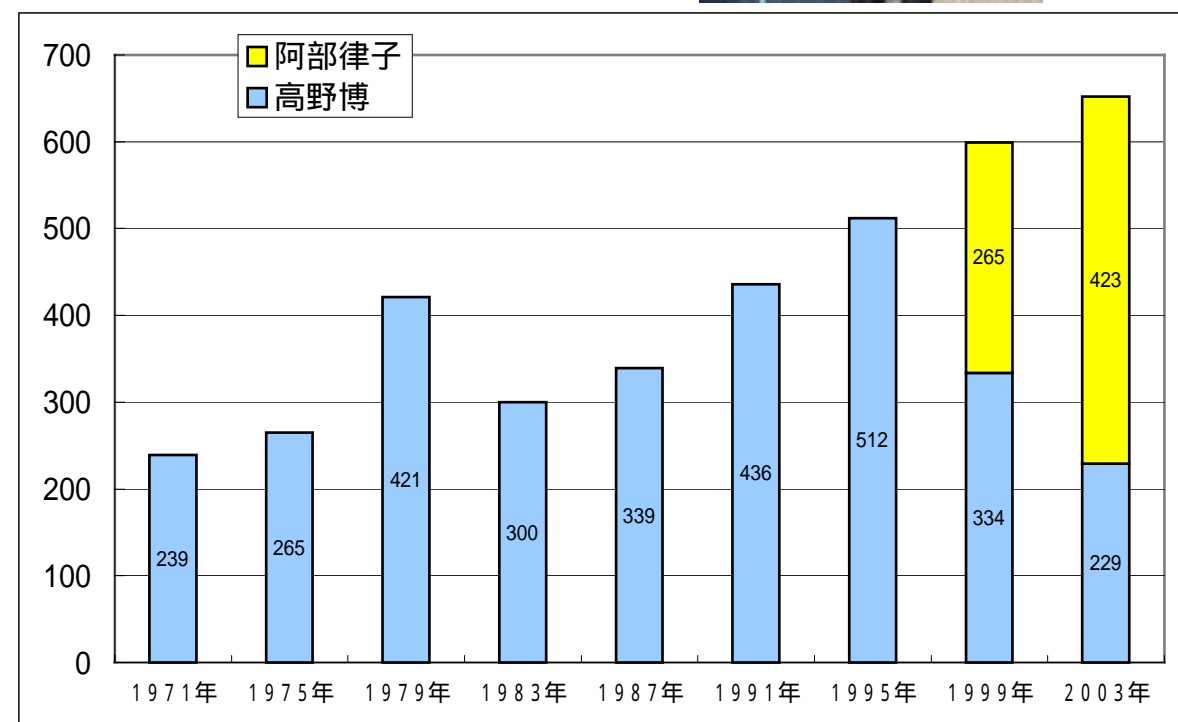
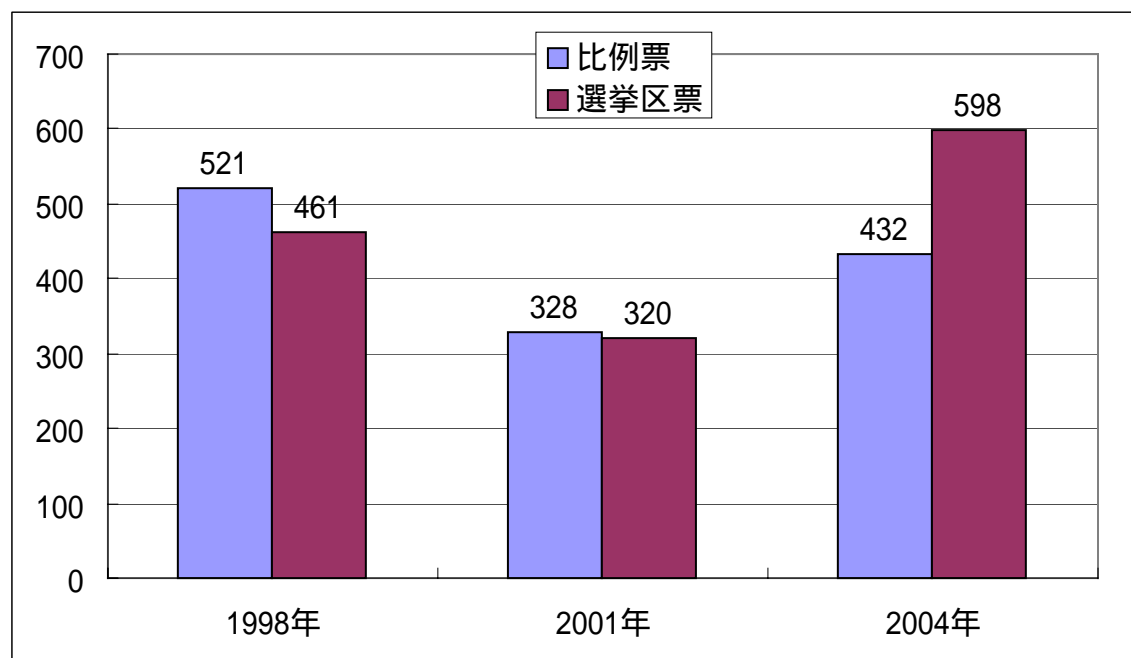
参議院選挙の全国的な結果は、大幅な議席の後退となり、ご支援くださった皆さんには「申し訳ありません」と心からお詫びを申し上げます。

しかし、女川町ではグラフに見られるように2001年参議院選を基準にして反転攻勢に転じるきっかけになりました。多くの方々から「ずいぶんがんばったね」と声をかけられます。町民の皆さんのご支援に心から深く感謝します。

しかも、町議選の得票推移をみても、私たちの日常活動や議会活動が間違っていないこと、着実に町民とともに歩んでいることがわかります。

三年後の2議席確保をめざして、これからもみなさんと力を合わせ、町民の安全と利益を守り、日本の平和と民主主義、暮らしを守る道を切り開いてまいります。

一層のご指導ご支援を心からお願いします。



日本共産党女川町委員会の見解と訴えを紹介します。

< 阿部律子町議・高野博の活動報告 >



< 吉井英勝衆議院議員と女川原発の視察 >

7月28日 原発対策特別委員会(阿部)
8月9日 女川原発に死亡事故や異物混入の経緯など説明を求める(阿部、高野)
同日 美浜原発事故発生
8月23日から25日に 福井県美浜原発事故現地調査(高野)
8月30日 吉井英勝衆議院議員と女川原発の配管減肉問題など視察、(阿部、高野)
石巻で美浜原発事故緊急報告・学習会

吉井英勝衆議院議員を迎え、美浜原発事故緊急報告・学習会



吉井英勝さんの話

電力業界も国も二次系の配管破断で「火力発電と同じ」「放射能漏れはない」「原発特有の事故ではない」などと強調していますが、一步間違えばアメリカのスリーマイル島原発事故のような炉心溶融になりかねない重大事故と、指摘しました。

11人の死傷者を出した日本の原発史上最悪の事故。ところで事故当時105人の作業員がタービン建屋にいたそうですが、それなら残りの93人は本当に無事だったのか実相は闇の中。下請けや孫請けの労働者に犠牲を強い

この集会は「原発の危険から住民の生命と財産を守る会」(代表は庄司捷彦弁護士)が開き、50人が参加しました。

また、集会に先立ち、高野事務局長が美浜原発の現地調査で関西電力から提供された、事故現場の生々しいビデオが上映されました。

< 石巻民商2階で真剣な雰囲気での学習会 >

ているのではないかと、鋭く問題提起をしました。

原発1日休めば1億円の損害と言われます。安全を軽視した、営利優先のもとで定期検査の異常な短縮が行われてきたのではないのでしょうか。

配管の減肉調査を28年間も行わず、点検漏れがわかってからも何ヶ月も放置し、稼働中の原発に大勢人を送り込み事前準備をさせる関西電力の姿勢こそ問題です。女川原発はでも同様の事故がおきている・・・と報告。

原子力安全保安院は美浜3号機の「定期安全レビュー報告」を追認し「点検は適切に行われている」と国のお墨付きを与え、28年間も点検漏れを見逃してきました。なぜ、配管破断になったのか、なぜ電力も国も見逃してきたのか、第三者による徹底した原因究明こそ必要です。その上で原発の推進機関の経済産業省から安全保安院の分離独立と権限や体制の強化が求められています、と生々しい実態をもとに報告しました。

女川原発は大丈夫?



< 8月24日 関西電力の説明をうける高野博氏 >

どうして、同じ事故が繰り返されるのでしょうか。

1996年(平成8年)8月女川原発2号機で営業運転1年1ヶ月で6.6ミリの厚さの配管が半分以上の3.2ミリまで減肉していたことが報道されました。

その4年後、今度は2000年9月女川原発1号機で16年間も点検が行われず、口径25センチ、厚さ9ミリの配管に小さな穴が開き蒸気が漏れる事故がありました。その時厚さは3.5ミリに減肉。

女川原発3号機の定期検査では放水路マンホールの管理上の不手際で死亡事故がおき、95個もの異物が発見されました。水産加工業者で異物混入があったら企業の存続にかかる重大事態でしょう。高野博事務局長は、「放射能をかかえる原発で異物混入を異常と認識できない東北電力の異常さを感じる」と語ります。

阿部律子町議は、去る9月1日バレーボールの練習で左足のアキレス腱を断裂、手術し入院中です。医師から3週間の安静加療と診断され、残念ですが9月定例会を欠席することになりました。一日も早く治しがんばります。